

NEW AGE BIKERS' TRANCE

ストリートバイカーズ9月号
2005年9月1日発行 (隔月・四頁発行) 第9巻第15号
2005年3月29日第3種郵便物認可

STREET BIKERS'



9

September 2005
ISSUE 078
590YEN

Special Issue

SO. CAL. CRUISER

街を駆けるアメリカ西海岸の新風!?

Special Fashion Issue

SPEED CLOTHING FOR SUMMER DAYS

BIKERS@STREET / GAL-BIKER!

FUJI ROCK / RISING SUN 2005 information

ちんかめmotorcycle & biker [土井 智生]

GRATEFUL DIRT

AMA/GNC FLAT TRACK CHAMPIONSHIP series 2005

Round 4 : SPRINGFIELD-MILE

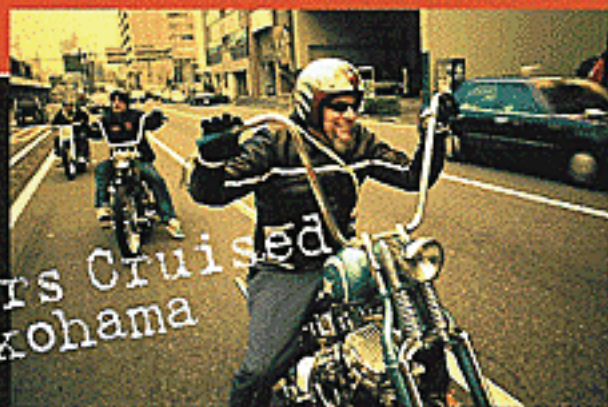
PONUSH

FRF'05&ストバイ・イヤーステッカー





Not Car Club,
But We All Love Car and Motorcycle



Sinners Cruised
in Yokohama



上映で手を挙げる配給会社やTV局があれば一般に公開されることになるという。

今現在、公共の電波に乗って流されているTVショーとは違い、この“Chopper Town”という作品は、過剰な演出など何もなく、ただ淡々とSINNERSの男たちのチョッパーライフが綴られているのだが、やはりそれは自然な形で今あるアメリカのチョッパーシーンにアンチテーゼを唱えるものだ。

確かにメディアの力によって、ホットロッドやチョッパーの業界は、飛躍的な発展を遂げたことは否めない。世間一般の人間が、自分とはまた違うチョッパーの世界に、バーチャルに触れたことによって今ではこの業界に莫大な金が落とされることとなった……しか

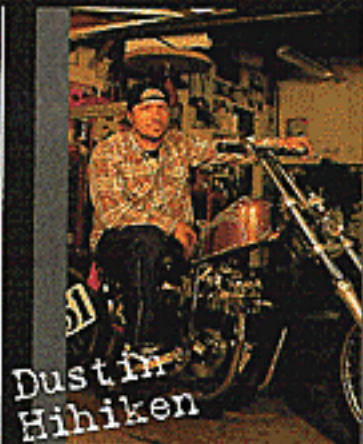
し、この“Chopper Town”を制作した男たちは、銭金とは関係ない部分で、長い月日を重ね、フィルムを回し続けてきたのだ。それは疑うべくもない。

今あるアメリカのチョッパー・シーンではない「本物」の男たちが、まだこの世界には生きている……おそらく彼らが伝えたかったのは、こんなことなのだろう。

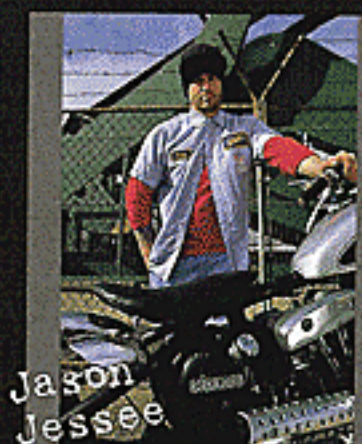
“SINNERS”。……たとえこの男たちがスクリーンやブラウン管に登場したとしても、そのライフ・スタイルを変えることは決してない。そう「本物の生き方」とは、絶対的に揺らぐものではないのだから。

©

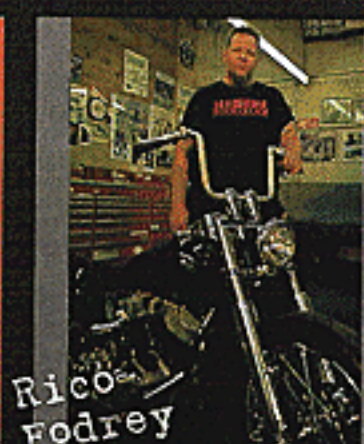
Sinners の男たち、その肖像



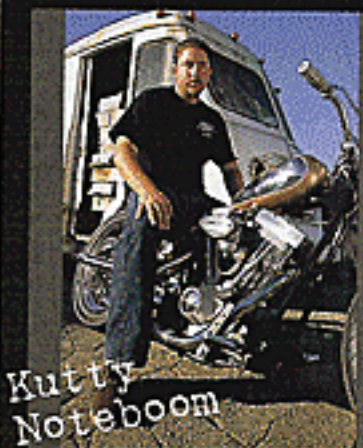
Dustin
Hihiken



Jason
Jesse



Rico
Fodrey



Kutty
Noteboom



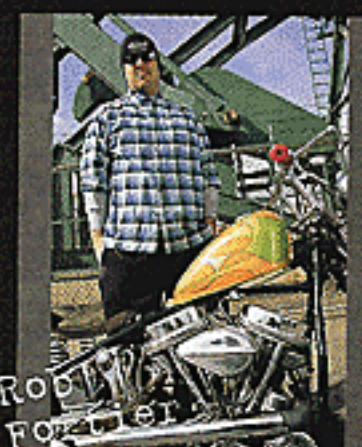
Cole
Foster



Chopper
Dave



Jeff
Decker



Rob
Fortier



Denver
Dan

先のページで紹介したとおり、あくまでも純粋な友人同士で結成されたホットロッド&モーターサイクルクラブ。……SINNERSの男たちを紹介するにあたってこうした表現こそが妥当なのであるが、しかし彼らのその動向は、特にチョッパー・シーンにおいて強い影響力を持っている。

現在、アメリカで盛り上がりつつある“オールドスクール・チョッパー”を中心としたカスタムの流れにしても、既存のハイテック・カスタムに疑問を抱いた彼らのような若者が生み出した潮流であることはまず間違いなく、実際にメンバーの何人かは時折ブラウン管に登場する著名人で囲まれている。

そのメンバーはといえば'60年代にスケートボード・シーンを賑わ

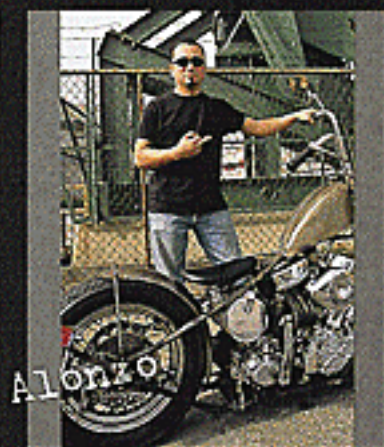
せたジェイソン・ジュシーや、昨年のHCSでゲストとして来日を果たしたサリナス・ボーイズカスタムのコール・フォスター、ウエストコースト・チョッパーズのスタッフであるチョッパー・デイブ、またH-D社公認のスケルプチャー（彫刻）アーティストにして、クロッカー・ポパーで知られるジェフ・デッカーなど、そうそうたるメンバーがその名を連ねているのだ。

もちろん、SINNERSというクラブのコトの起こりを見れば分かる通り、彼らはいくまでも純粋な友人同士ゆえ、いくら有名であろうが“大物ヅラ”するような輩はまったくいない。メンバーは映画セットの大道具や理容師、ジャーナリストにミュージシャンとその職業も幅広いが、誰もが対等な立場で人としてつき合っている

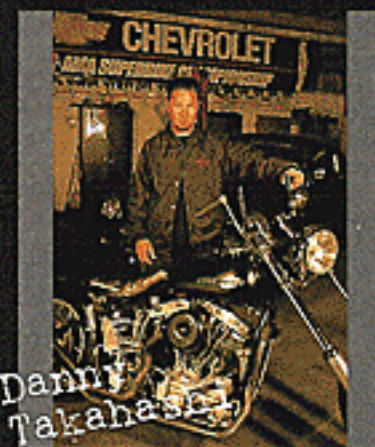
各業界で名を知られる男たちが、純粋な友人同士として集まったSINNERSというクラブは、
今やチョッパーの世界で強い影響力を持つ。その男たちの肖像をここでは紹介してみたい。

波辺まこと (HARDCORE CHOPPER) = 文・写真 text & photographs by MAKOTO NAMIHARA 増井貴光 = 写真 photographs by TAKA MAQUI

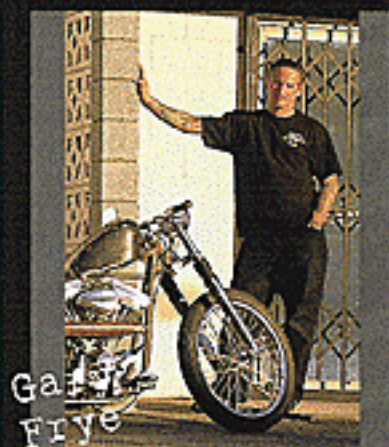
Chopper, Ducking, Only
Sinners



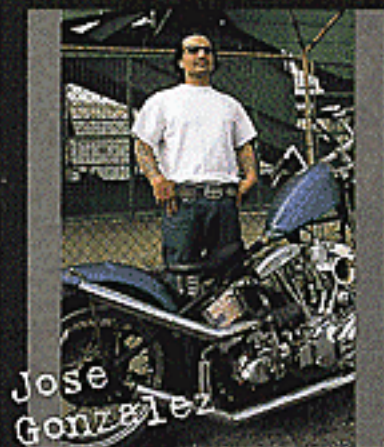
Alonzo



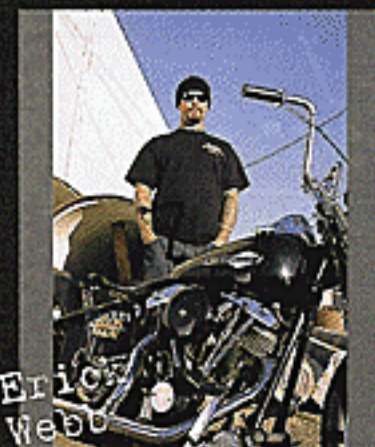
Danny Takahashi



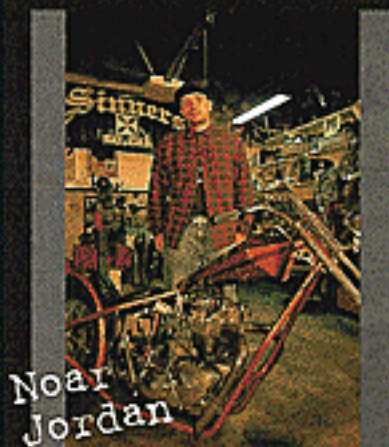
Gary Frye



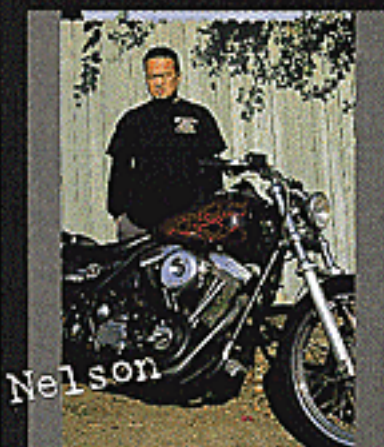
Jose Gonzalez



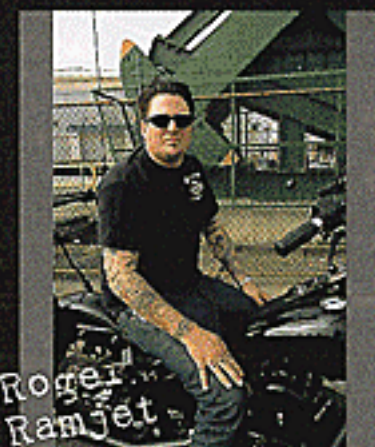
Eric Webb



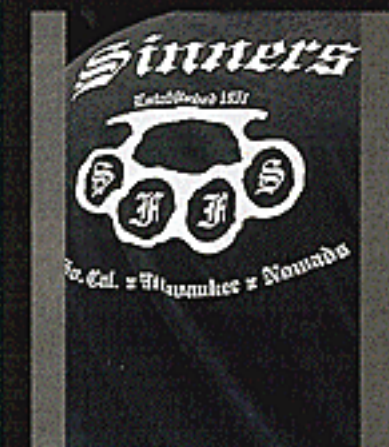
Noar Jordan



Nelson



Roger Ramjet



ことが彼らの表情からも分かるだろう。

「俺たちはクラブだけど厳密な規則なんて何もない(笑)。純粋な友人同士の集まりなんだ。だからSINNERSは集団で走ったりすることもない。その時にツルんでいる仲間が、その場のノリで走るだけなんだ。仲間になるにしてもそう。時間とフィーリングが何よりさ。どんな人間だろうとトモダチだと思ったヤツにはバックルを渡すだけ。それでメンバーになるんだ」とRICOは言う。

これは逆を言えばどんなメジャーなスターであろうとも、彼らと同じ「ノリ」を共有できないヤツは、永久的にメンバーになれないということを示している。そして、実際に彼らと出会ってみると一人、一人がキッチリと自分の生き方やポリシーを持っていることも

よく分かる。同じ価値観を共有できない人間では、彼らに仲間として受け入れられないのだ。

結果として彼らは、業界に強い影響力を与えてはいるが、もちろん誰もがブラウン管の中で「偶像」になることなどは望んでいない。ただ純粋にチョッパーを、ホットロッドを造り、楽しむ。それだけとさえいえばそれだけの男たちだ。

「俺たちが何故イベントなどで注目されるのかって？ やっぱそれは、みんながそれぞれのスタイルを持っているからだろうね。誰一人、同じバイクがない。それこそがチョッパーじゃないか」

群れるのではなく、あくまでも個の集団であること……真のチョッパー乗りたちがそこにいた。